

報告事例番号②

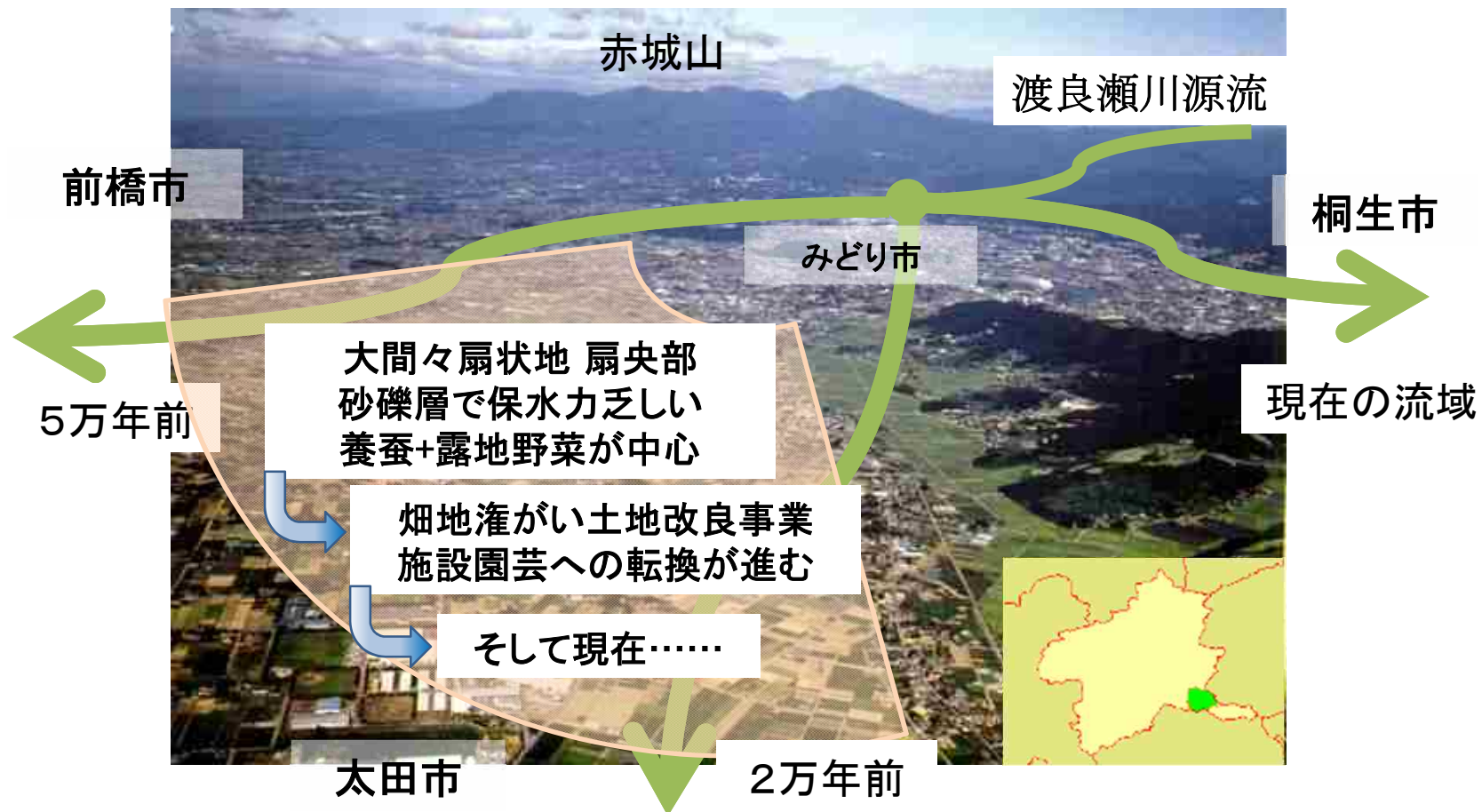
雨よけハウス 軟弱野菜産地の強化

計画年度：平成30～令和2年

東部農業事務所普及指導課

課題設定の背景及び理由

➤ 0 太田市藪塚地区(旧・藪塚本町)の地勢概要



課題設定の背景及び理由

➤ 1 軟弱野菜大規模周年栽培農家増加

雨よけハウスの普及に伴い、スイカ(3~6月)+ホウレンソウ(7~11月)の野菜複合経営が盛んだったが、雇用を活用し、ホウレンソウを主とした大規模周年栽培にシフト。(※スイカはパート従業員には扱い難い)



課題設定の背景及び理由

➤ 2 周年栽培による連作障害の発生

ホウレンソウでは、連作障害による夏期の生育不良(高温障害)が課題。
代替に暑さに強く、荷姿や出荷調製に差がない「コマツナ」を導入。



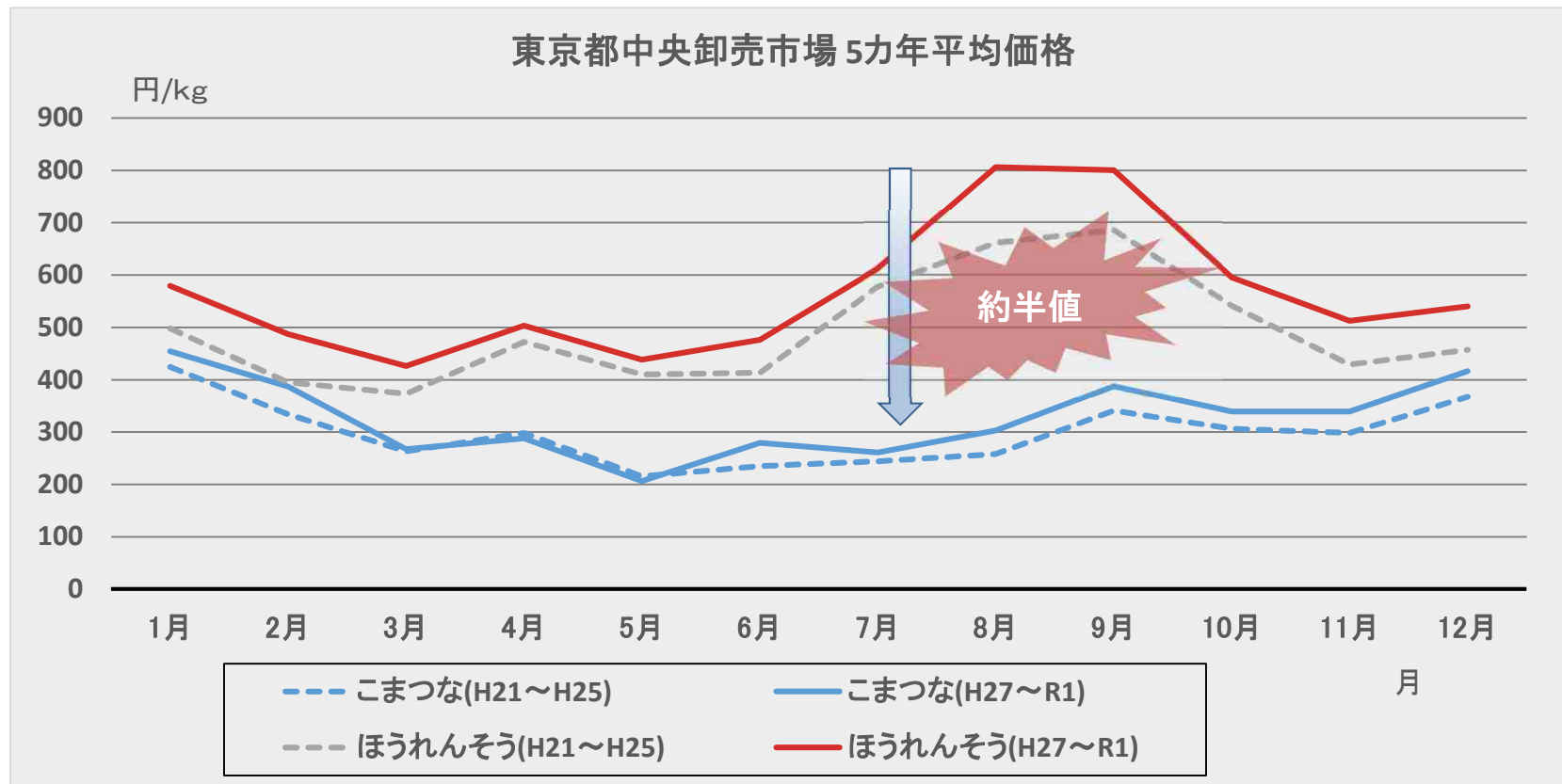
課題設定の背景及び理由



コマツナ

➤ 3 夏期の価格が低迷傾向

コマツナに代わる補完作物導入による経営安定が必要。



課題設定の背景及び理由

- 4 異物混入等による消費者の信頼低下
品質向上、作業環境改善を目指したGAP手法の活用

主な推進課題と解決手法

1 雨よけハウレンソウの夏期安定生産

遮光資材の導入・かん水方法の改善による発芽不良対策

【支援対象】
JA太田市ハウレンソウ部会

2 雨よけコマツナ生産農家の経営安定

価格が低迷する5～7月に出荷できる補完作物

【支援対象】
JA太田市葉菜類部会

3 雇用労力導入農家の経営安定

モデル農家の年間作付計画の見直し

重点農家の経営分析・改善

【支援対象】
JA太田市葉菜類部会

4 GAP手法活用による安全生産改善


チェックシートを活用したリスクの洗い出し。

モデル農家のJGAP認証取得支援。

【支援対象】
JA太田市ハウレンソウ部会
JA太田市葉菜類部会

到達目標(目標年次の姿)

	H29(現状)	R2(目標)
1 7~8月出荷ホウレンソウ反収	956kg	1015kg
2 コマツナ補完作物出荷数	231t	372t
3 作付見直し農家数	0戸	8戸
4 異物混入改善実施農家率	85%	100%



活動経過及び結果

1 雨よけハウレンソウの夏期安定生産

①ケナガコナダニ防除対策(R1)

【活動経過】

- ◆ キルパー散布試験
- ◆ 防除対策研修会の開催
- ◆ JAメールシステムを活用した情報発信



【活動結果】

- ◆ 適期防除体系の構築
は種前と本葉2・4葉期防除が効果的
- ◆ キルパー処理適期確認
2月・4月の地表散布処理や、9月末の散布混和处理



活動経過及び結果

1 雨よけハウレンソウの夏期安定生産

②遮光資材の改善

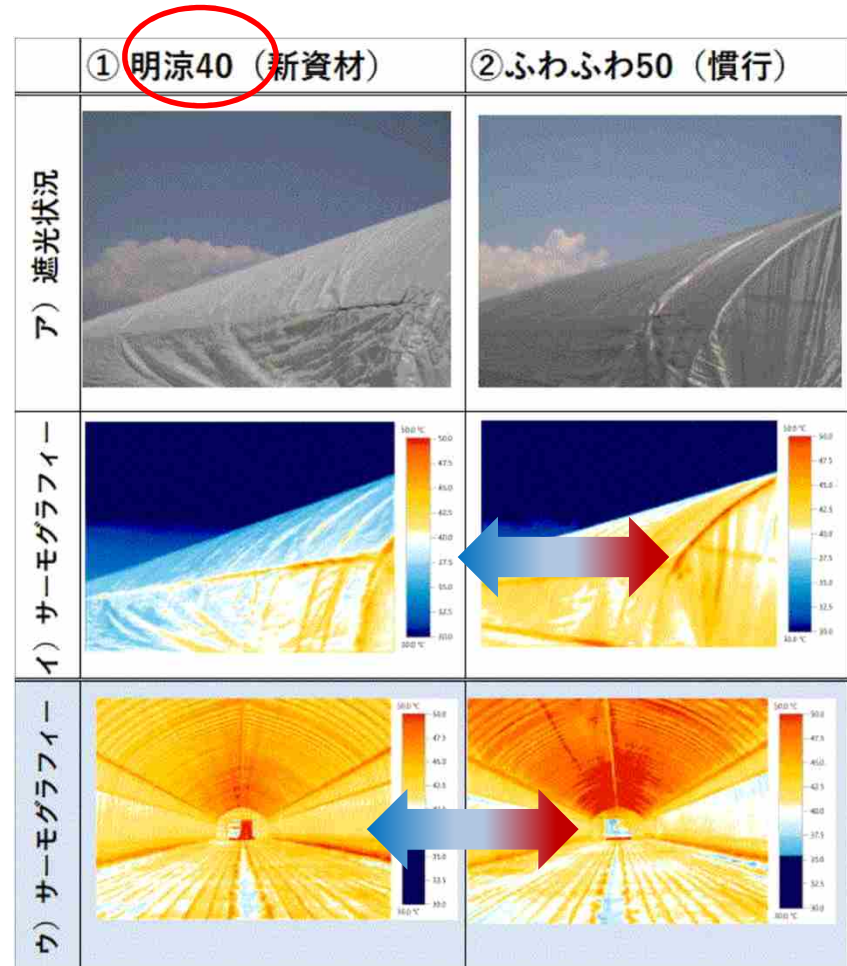
【活動経過】

- ◆ 新資材の検討実証ほ設置
- ◆ 栽培講習会での検討結果の周知、導入推進



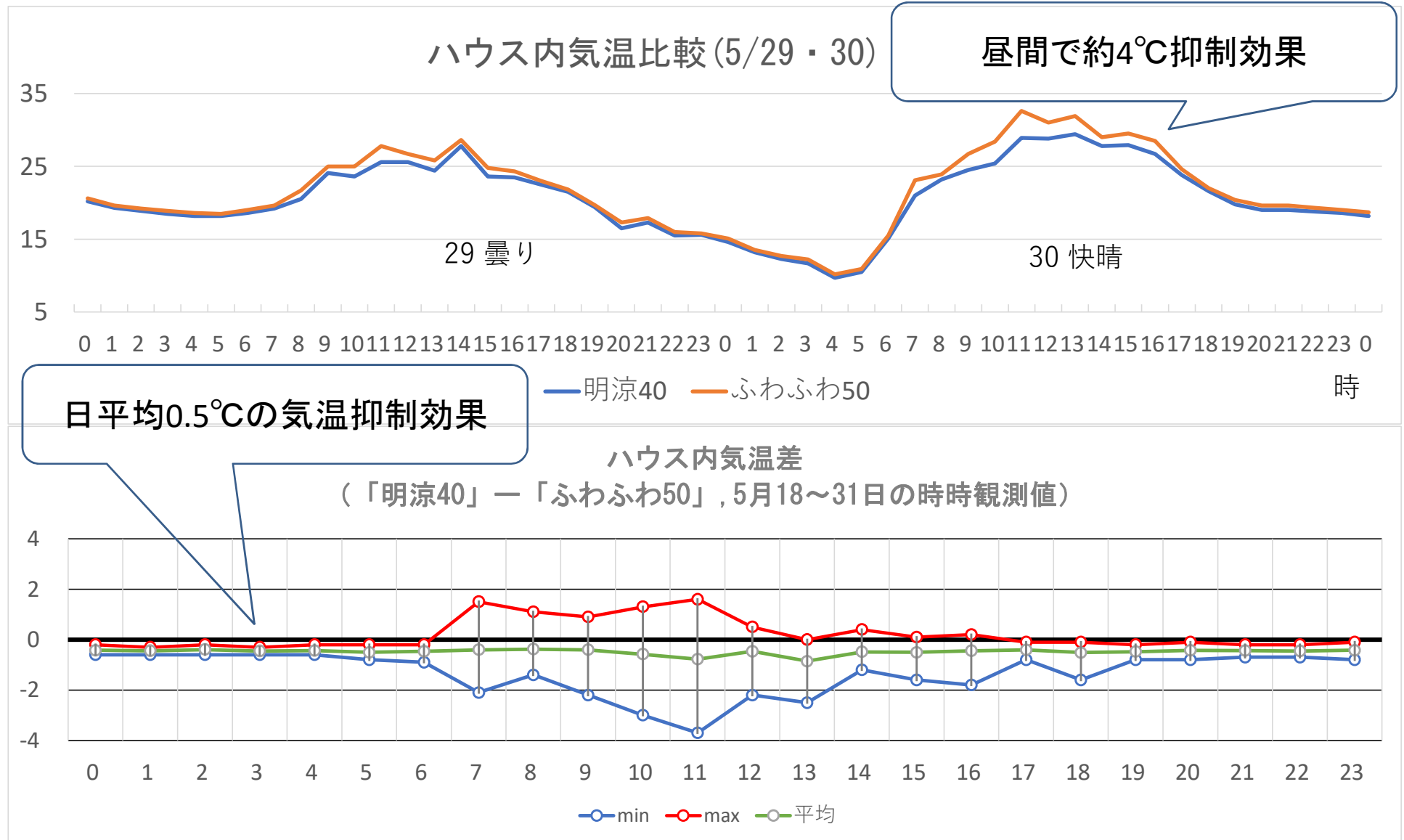
【活動結果】

- ◆ 新白色資材は植物体の表面温度やハウス内気温が低くなることがわかった。
- ◆ 7戸の農家で導入



活動経過及び結果

1 雨よけハウレンソウの夏期安定生産



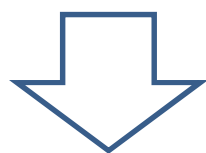
活動経過及び結果

1 雨よけハウレンソウ夏期安定生産

③ 灌水方法の改善

【活動経過】

- ◆ 自動灌水装置の実証試験
- ◆ 栽培講習会での検討結果の周知



【活動結果】

- ◆ 初期生育の改善(揃い)
- ◆ 収量の向上
- ◆ 灌水方法: 関心の高まり



自動灌水装置



試験ほ場の様子

活動経過及び結果

1 雨よけハウレンソウ夏期安定生産

③ 灌水方法の改善

自動灌水装置利用による収量・品質の違い

表 収穫調査

調査項目	9/18 (38日目)			9/23 (43日目)		
	草丈(mm)	重量(g/株)	製品率(%)	草丈(mm)	重量(g/株)	製品率(%)
自動灌水区	236.1	25.3	11.3	251.0	34.7	37.5
慣行区	222.4	20.2	1.3	226.8	26.2	2.5

※は種日 : 2020年 8月11日

※調査株数 : 9/18 : 80株/区、9/23 : 40株/区 製品率 : 草丈260mm以上の株割合

製品率の向上あり(高温期の生育促進効果)

活動経過及び結果

2 雨よけコマツナ生産農家の経営安定

①夏期の補完作物の導入推進

【活動経過】

- ◆ 導入品目の選定
- ◆ 栽培講習会、巡回指導



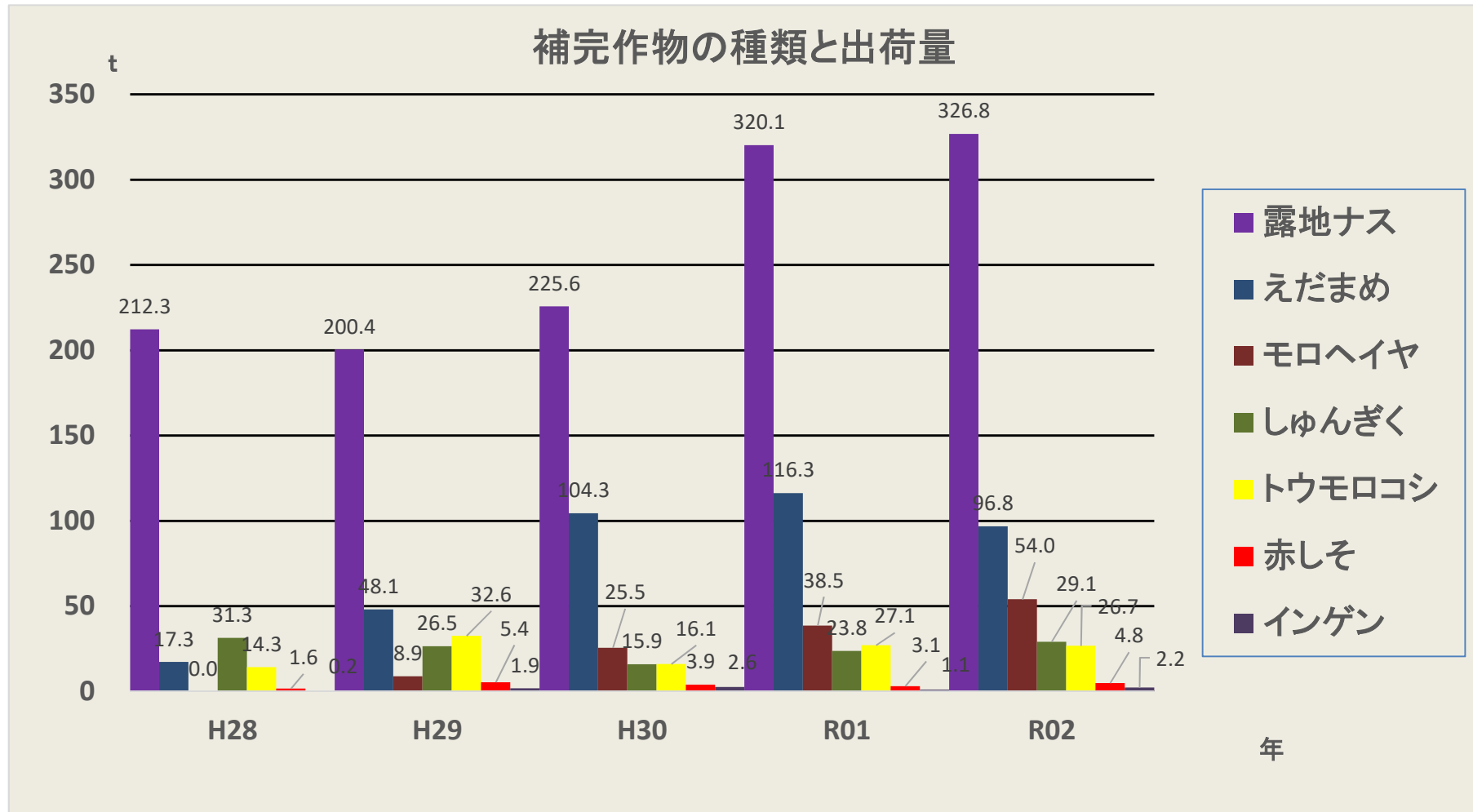
【活動結果】

- ◆ 補完作物にインゲン・モロヘイヤ等を導入し収入増加
- ◆ 露地ナス栽培者が増え、新たな部会結成



活動経過及び結果

2 雨よけコマツナ生産農家の経営安定



推進品目以外も含め補完作物が増加した

活動経過及び結果

3 雇用労力導入農家の経営安定

①モデル農家の年間作付計画の見直し

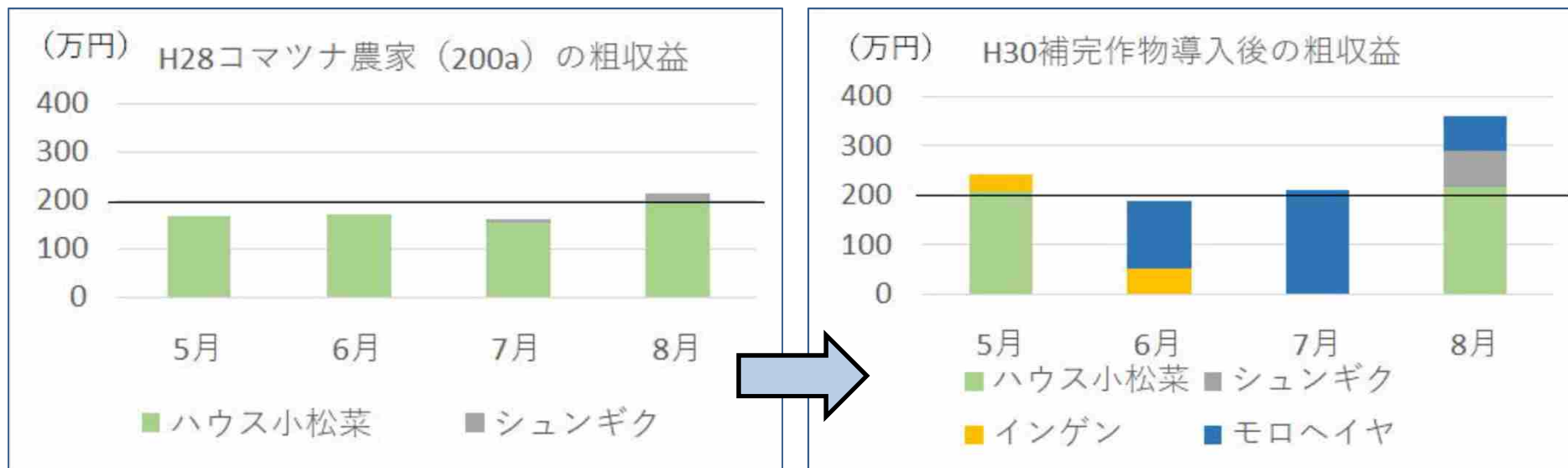
年	生産者	現状	導入作物	その他支援内容
H30	T. M	ハウレンソウ コマツナ	露地ナス	コナダニ対策
H30	K. T	//	露地ナス	
H30	K. Y	//	露地ナス	遮光資材・コナダニ対策・GAP(後継者)
H30	G. T	//	モロヘイヤ	
R01	S. T	//	モロヘイヤ	コナダニ対策
R01	S. T	//	モロヘイヤ	
R02	K. M	//	えだまめ	経営相談所活用・GAP検討
R02	S. K	//	赤しそ・露地ナス	経営相談所活用・GAP(後継者)

活動経過及び結果

3 雇用労力導入農家の経営安定

①モデル農家の年間作付計画の見直し

農家S.K 補完作物の導入効果 H28 → H30



活動経過及び結果

3 雇用労力導入農家の経営安定

②重点農家の経営分析・改善

- 【活動経過】K. M 氏・S. K 氏

- 中小企業診断士による経営課題の明確化
- 経費拡大や研修生の作業能率向上などが課題
- 実習生向け「ホウレンソウ出荷調製作業手順」作成
- GAP手法の活用提案

→ 農林大ASIA GAP視察研修

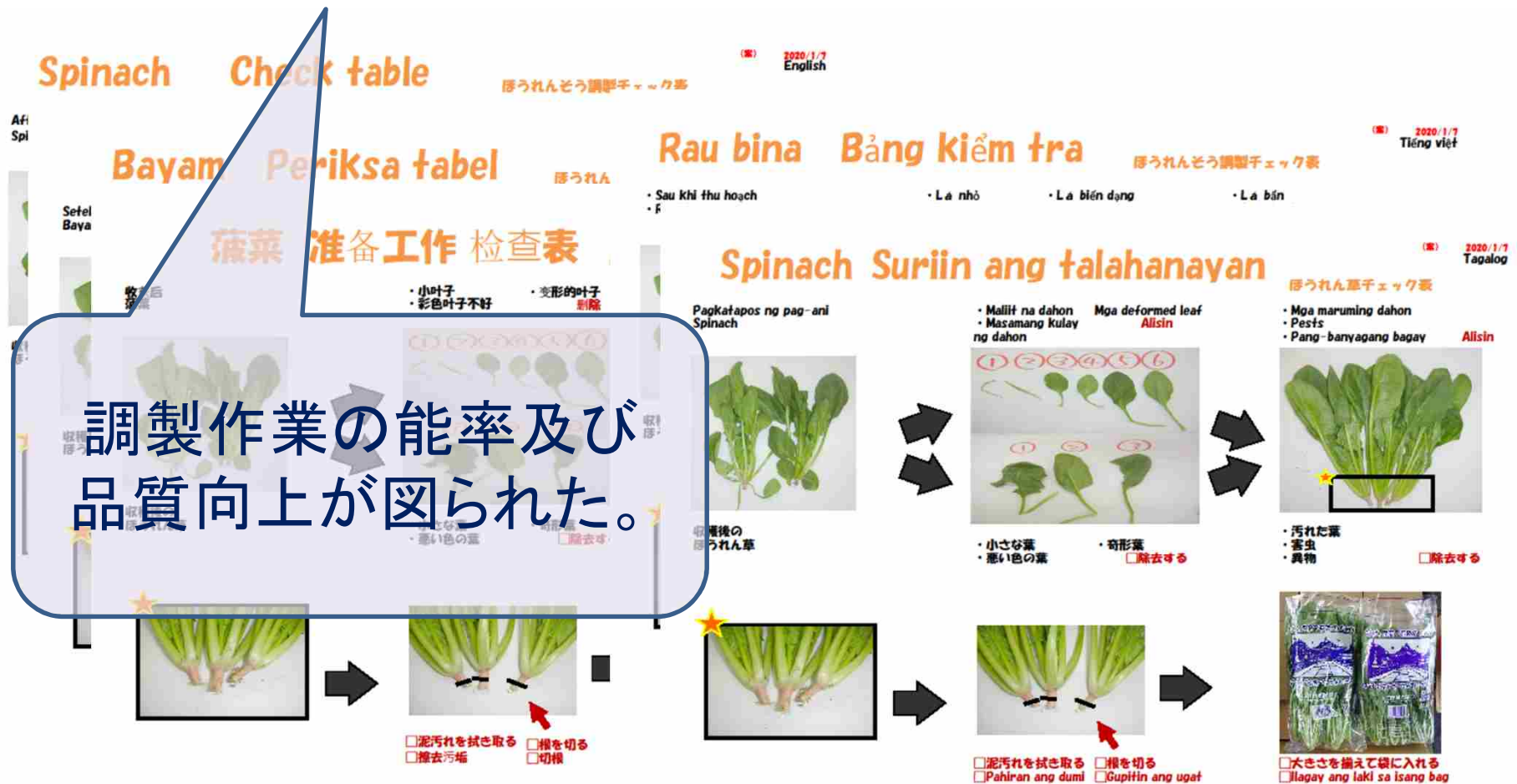
※せっかくの機会だから他の中核農家にも呼びかけてみよう.....

活動経過及び結果

3 雇用労力導入農家の経営安定

②重点農家の経営分析・改善

【活動結果】 実習生向け出荷調製作業手順書



活動経過及び結果

3 雇用労力導入農家の経営安定

②重点農家の経営分析・改善

【活動結果】GAP手法の活用提案→農林大視察研修



GAP認証へ向けた自主的な取り組み開始

活動経過及び結果

4 GAP手法活用による安全生産改善

部会員の
理解を深める

【活動経過】

◆ チェックシートを活用した
生産工程管理指導実施

【活動結果】

◆ 異物混入改善対策
実施農家の増加

ホウレンソウ/コマツナGAPチェックリスト（令和2年度）～食品の安全と信頼確保のために～

お忙しい所、お手数をおかけしますが、ご記入後、出荷時にJA担当者にお渡し下さい（1月29日迄にお願いします）

R2/12JA太田市/東部農業事務所普及指導課

記載日	月	日
氏名		

工程	管理対象	主なリスク	チェック項目	評価(番号に○をつけてください)	
栽培	農薬	残留農薬	農薬は毎回ラベルを確認して適正に使用していますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			使用した農薬の履歴を記載していますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			農薬使用前に防除器具が正常に動くか点検していますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			農薬使用後はホース・タンクを洗浄していますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			農薬は、整理して保管庫に入れ、カギをかけていますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
	ほ場	肥料	環境負荷	使用した肥料・土壌改良材の履歴を記載していますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない
			病原菌/異物混入	ハウス内への動物の進入防止対策をしていますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない
		環境負荷	IPM	土壌診断に基づいた施肥をしていますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない
				化学農薬だけに頼らない防除法も取り入れていますか ※耐病性・抵抗性品種、防虫ネット、発生予察情報の活用等	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない
			IPM	ほ場内や周辺の清掃・雑草除去をしていますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない
				産業廃棄物(廃ビ・ポリ等)は適正に処理していますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない
収穫・出荷	作業員	病原菌 異物混入	清潔な入れ物で収穫していますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			品質向上 収穫物に土がつかないように対策をとっていますか ※コンテナを直接土の上に置かない(ソリの利用等)等	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			手先・器具は清潔な水ですぐに洗えるようにしていますか ※近くに水道がない場合はペットボトルに水道水を入れて使う	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			収穫・調製作業前に作業員の健康を確認していますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			調製作業前に手洗いを励行していますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			清潔な作業服で調製作業をしていますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			調製作業時に髪の毛の混入を防ぐ対策をしていますか(例:帽子や衛生キャップの着用など)	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	
			調理・飲食は特定の場所が決められていますか	1. できた 2. 概ねできた 3. あまりできない 4. できない	

活動経過及び結果

4 GAP手法活用による安全生産改善

【活動経過】

◆ JGAP認証取得支援



【活動結果】

◆ JGAP認証取得農家3戸

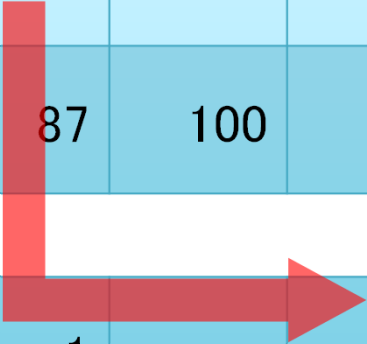
先進的モデル農家から地域全体への波及効果を狙う（点から面へ）



作業場自己点検の様子

目標の達成状況

項目	H29	H30		R1		R2	
	(現状)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)
7～8月出荷ホウレンソウ 反収(kg)	956	975	977	995	1,006	1,015	982
コマツナ補完作物 出荷量(t)	231	240	257	262	359	372	486
作付計画見直し 農家数(戸)	0	2	4	6	6	8	8
異物混入改善 実施農家率(%)	85	90	87	95	87	100	87
GAP導入モデル農家 (JGAP認証取得農家)	0		0		1		2



残された課題

- 1 複合的な夏期生育安定技術の確立
- 2 ホウレンソウケナガコナダニ防除体系の構築
- 3 GAP手法の浸透

残された課題

今後の対応

1 複合的な夏期生育安定技術の確立

遮光新資材の再検証

灌水方法の改善

2 ホウレンソウケナガコナダニ防除体系の構築

適用剤の効果確認

3 GAP手法の浸透

チェックシート活用自己点検

巡回指導→異物混入事案防止

モデル農家3戸→GAP取得効果と活用方法の普及